

# やまなし花き振興計画



令和6年3月

山 梨 県 農 政 部

# 目 次

## 第1章 策定の基本的な考え方

1 策定の趣旨	1
2 計画の位置付けと期間	1

## 第2章 本県花き生産の現状及び花き産業をとりまく環境の変化

1 本県花き生産の現状	2
(1) 栽培面積	2
(2) 生産額	4
2 農家・農業者の現状	6
(1) 農家戸数	6
(2) 新規就農者	6
3 販売流通の現状	7
(1) 卸売市場における主要花き品目の取扱数量と平均単価	7
(2) 直売所等地域内販売の動き	8
(3) 消費の現状	9
(4) 消費の新たな動向	10
(5) 流通の新たな課題	10

## 第3章 本県花きの目指すべき姿

1 目指すべき姿	11
2 目標	11

## 第4章 アクションプラン（今後4年間の取り組みの方向）

1 花きの安定生産に向けた生産基盤の強化	12
(1) 特産花きの生産性・品質の向上	13
(2) 高品質、省力化・低コスト化に向けた技術の開発と普及	15
(3) 既存担い手の組織活動の活性化及び担い手の確保・育成	17
2 県産花きの需要拡大	18
(1) 消費者・実需者へのPR	19
(2) 観光分野での県産花きの利用促進	20
(3) 地域と連携した花育活動の推進	21
3 株式会社大田花きと連携した花きの生産振興	22

## 第5章 地域別重点推進事項

1	中北地域	・・・・・・・・・・・・・・・・	24
2	峡東地域	・・・・・・・・・・・・・・・・	27
3	峡南地域	・・・・・・・・・・・・・・・・	30
4	富士・東部地域	・・・・・・・・・・・・・・・・	32

## 第6章 主要品目の推進事項

1	洋ラン（コショウラン、シンビジウム）	・・・・・・・・	37
2	鉢花（シクラメン、アッサムニオイザクラ）	・・・・・・・・	38
3	県オリジナル花き（ふじさんアジサイ、クリスマスエリカ）	・・・・・・・・	39
4	切り花	・・・・・・・・	40
5	苗物類	・・・・・・・・	41

# 第1章 策定の基本的な考え方

## 1 策定の趣旨

本県の花きは、日本一の日照時間や夏期冷涼な高冷地を有するなどの恵まれた気候条件や、大消費地に近い立地条件を活かし、洋ラン、シクラメンなどの施設鉢花やバラなどの切り花、花壇苗などが生産される産地を形成してきました。

しかし、花きの消費低迷や生産コストの増大、担い手の高齢化、輸入品の増加などにより、生産額は40億円を維持しているものの栽培面積は減少傾向にあります。

また、近年では、生産資材等の高騰・高止まりによる農業経営への影響も大きく、本県花きを取り巻く状況は厳しいものとなっています。

このような中、県では、平成28年3月に、「やまなし花き振興計画」を策定、令和2年3月に改定し、花き産地の強化や県産花きの販売促進、県民への花き文化の普及などに取り組んできました。

更に、県では、令和5年度に、農業者の更なる所得向上に向け、重点的に取り組む施策や具体的な数値目標などを明らかにする「やまなし農業基本計画」（令和5年～令和8年）を策定しました。

花きにおいても、需要や環境の変化に対応し、花き生産者の更なる所得向上に向け、目指すべき目標や、重点的に取り組む施策等を見直し、花き振興計画を策定することとします。

## 2 計画の位置付けと期間

- 「やまなし花き振興計画」（以下「本計画」という。）は、令和5年度から令和8年度までを計画期間とする「やまなし農業基本計画」の花きの部門計画と位置づけます。
- 本計画は、「花き振興に関する法律」（平成26年法律第102号）に規定する「都道府県花き産業及び花きの文化の振興に関する計画」として位置づけます。
- 本計画の計画期間は、令和5（2023）年度から令和8（2026）年度までの4年間とします。

## 第2章 本県花き生産の現状及び花き産業をとりまく環境の変化

### 1 本県花き生産の現状

#### (1) 栽培面積

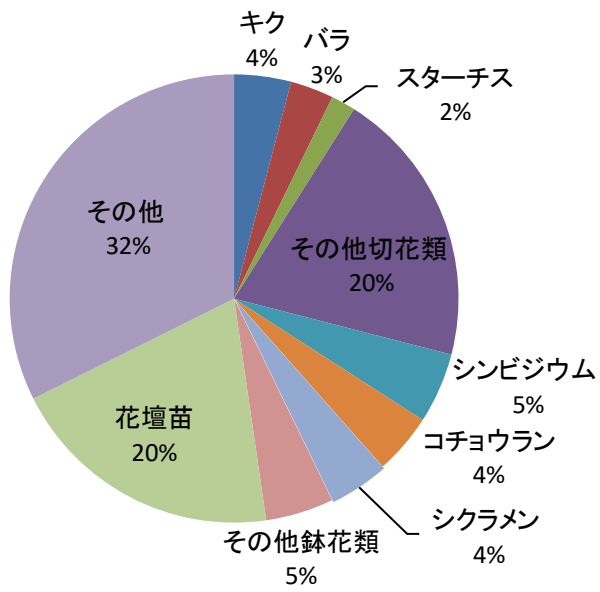
令和4年の花き栽培面積は、合計102.5haであり、品目別には、切り花類が28ha、鉢花類が21ha、花壇苗が20.9haとなっており、栽培面積は平成30年と比較して20.4ha減少しています。栽培面積減少の主な要因としては、高齢化や担い手不足、他の作目への転換、消費の低迷等があげられます。

#### 栽培面積の推移

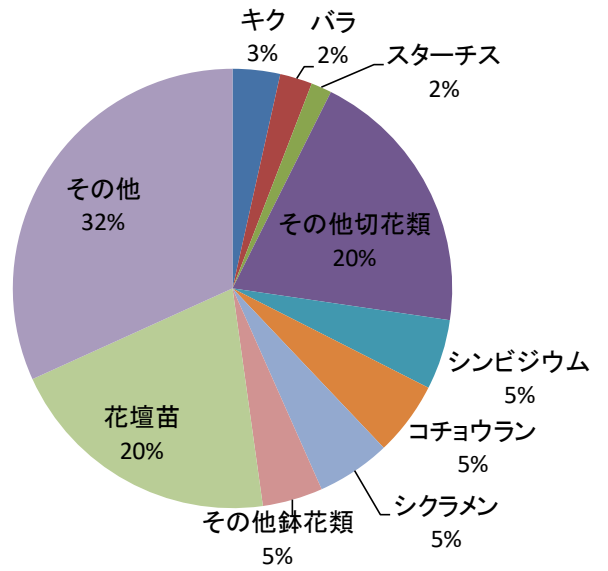
単位:ha

品目別\項目別\年度		H22	H26	H30	R4
切 花 類	キク	10.5	7.8	5.0	3.6
	バラ	6.9	4.0	3.8	2.4
	スターチス	5.7	2.5	2.2	1.6
	その他切花類	26.0	24.4	24.6	20.4
	小計	49.0	38.7	35.7	28.0
鉢 花 類	シンビジウム	9.6	6.2	6.3	5.3
	コチョウラン	6.0	5.8	5.4	5.6
	シクラメン	8.7	5.9	5.3	5.6
	その他鉢花類	10.0	7.5	6.0	4.6
	小計	34.2	25.4	23.0	21.0
花壇苗		32.8	26.6	24.5	20.9
その他		41.0	40.8	39.8	32.6
合計		157.2	131.5	122.9	102.5

品目別作付面積の割合(H30)



品目別作付面積の割合(R4)



## (2) 生産額

令和4年の花き生産額は、40億3千万円と、平成26年以降低迷が続いています。

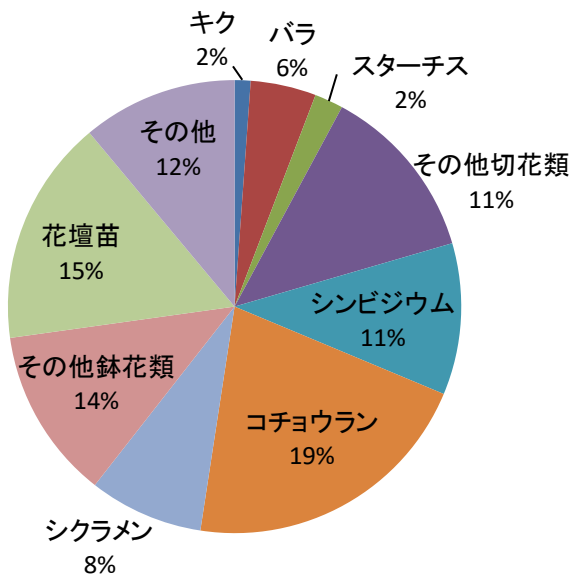
品目別には、切り花類が6.8億円、鉢花類が22.8億円、花壇苗が6.9億円となっています。切り花類が高齢化や他の作目への転換などによる栽培面積の減少が主な要因となり減少する一方、鉢花類や花壇苗は単価の上昇等により生産額を維持しています。

### 生産額の推移

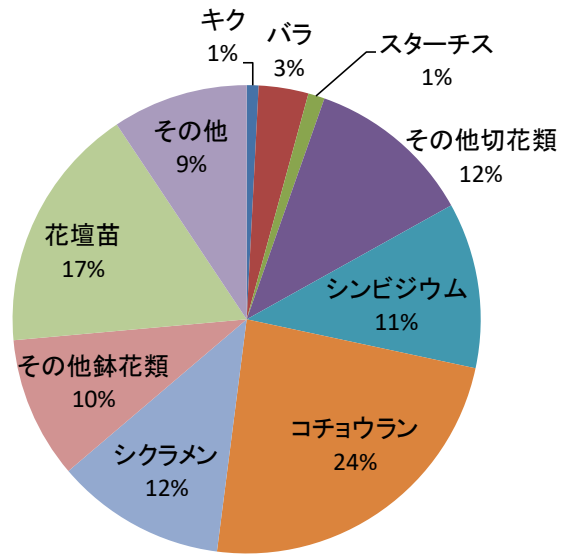
単位:億円

品目別\項目別		H22	H26	H30	R4
切 花 類	キク	1.8	0.8	0.5	0.3
	バラ	3.9	2.2	1.9	1.4
	スターチス	2.2	0.7	0.8	0.5
	その他切花類	5.0	4.2	5.0	4.6
	小計	12.9	8.0	8.1	6.8
鉢 花 類	シンビジウム	7.5	4.4	4.3	4.6
	コチョウラン	8.5	7.7	8.4	9.5
	シクラメン	5.0	3.0	3.2	4.7
	その他鉢花類	8.4	5.5	4.8	3.9
	小計	29.2	20.6	20.7	22.8
花壇苗		6.7	6.1	6.4	6.9
その他		5.3	4.7	4.4	3.8
合計		54.3	39.5	39.6	40.3

品目別生産額の割合(H30)



品目別生産額の割合(R4)





## 2 農家・農業者の現状

### (1) 農家戸数

令和 2 年の販売目的で花きを栽培している農家戸数は 233 戸で、本県の販売農家の 1.6%を占めています。

#### 山梨県販売農家数の推移と花き農家の割合

	H17	H22	H27	R2
山梨県の販売農家数※1 (戸)	22,529	20,043	17,020	14,178
花き販売農家数※2 (戸)	459	389	306	233
花き販売農家の割合 (%)	2.0	1.9	1.8	1.6

※1 山梨県の販売農家数：専業農家、第 1 種兼業農家、第 2 種兼業農家

※2 花き販売農家数：販売目的の作物の類別作付（栽培）農家数「花き類・花木」  
農林水産省統計部「農林業センサス」

### (2) 新規就農者

花き生産の新規就農者数は、令和元年から令和 4 年まで 21 人で、うち新規自営就農者は 3 人、その他は農業法人等への新規雇用就農者となっています。

#### 新規就農者数

単位：人

	R 元	R2	R3	R4	合計
新規就農者の総数	307	314	321	331	1273
うち花き就農者数	4	3	7	10	24
うち自営就農者数	0	0	1	2	3
うち雇用就農者数	4	3	6	8	21

山梨県農政部

### 3 販売流通の現状

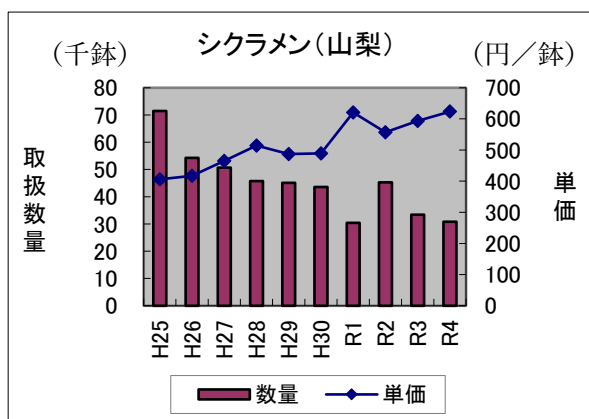
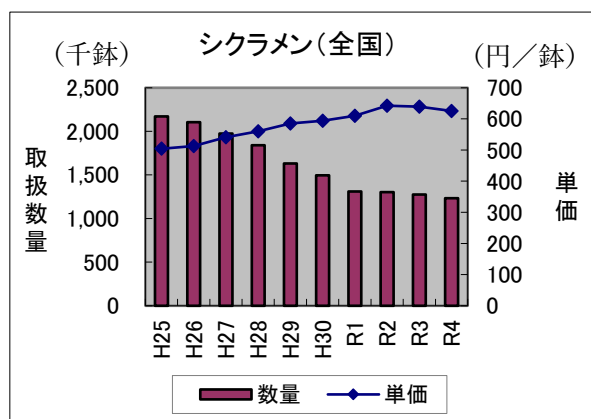
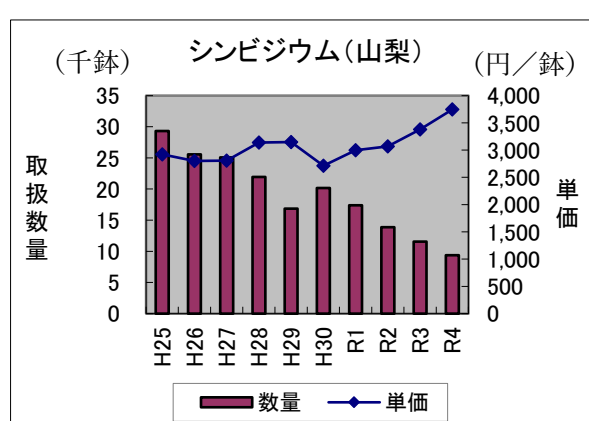
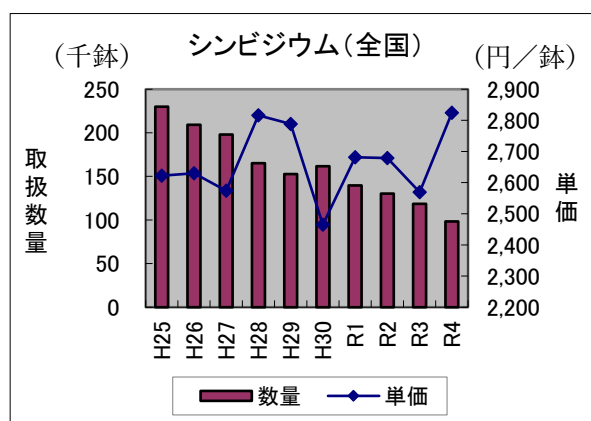
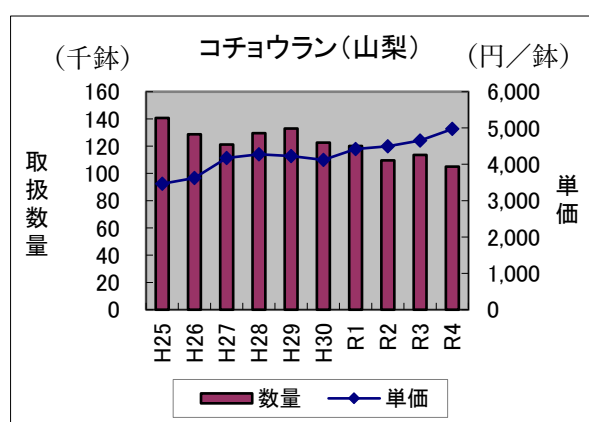
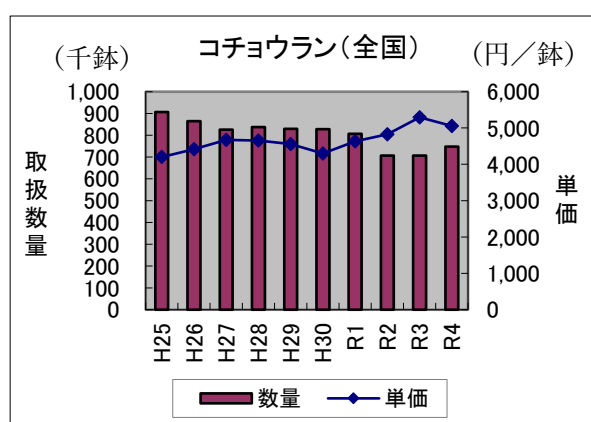
#### (1) 卸売市場における主要花き品目の取扱数量と平均単価

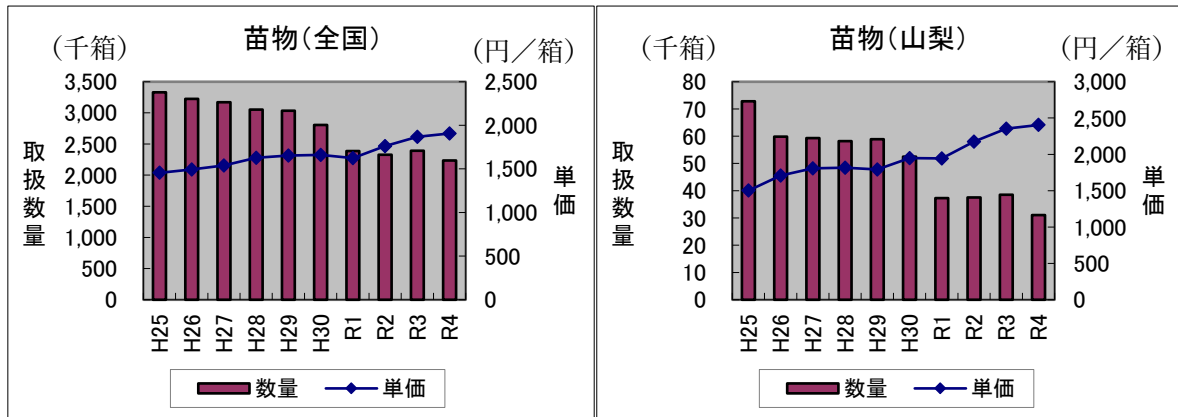
東京都中央卸売市場における全国の主要花き品目の取扱数量は、いずれも減少傾向ですが、コチョウランは減少がやや緩やかに推移しています。

平均単価は、いずれも出荷量の減少等に伴い上昇傾向で推移しています。

山梨県産の主要品目の取扱数量と平均単価についても、コチョウラン、シンビジウム、シクラメン、苗物ともに全国と同様の傾向となっています。

#### 東京都中央卸売市場における品目別の取扱数量と平均単価の推移

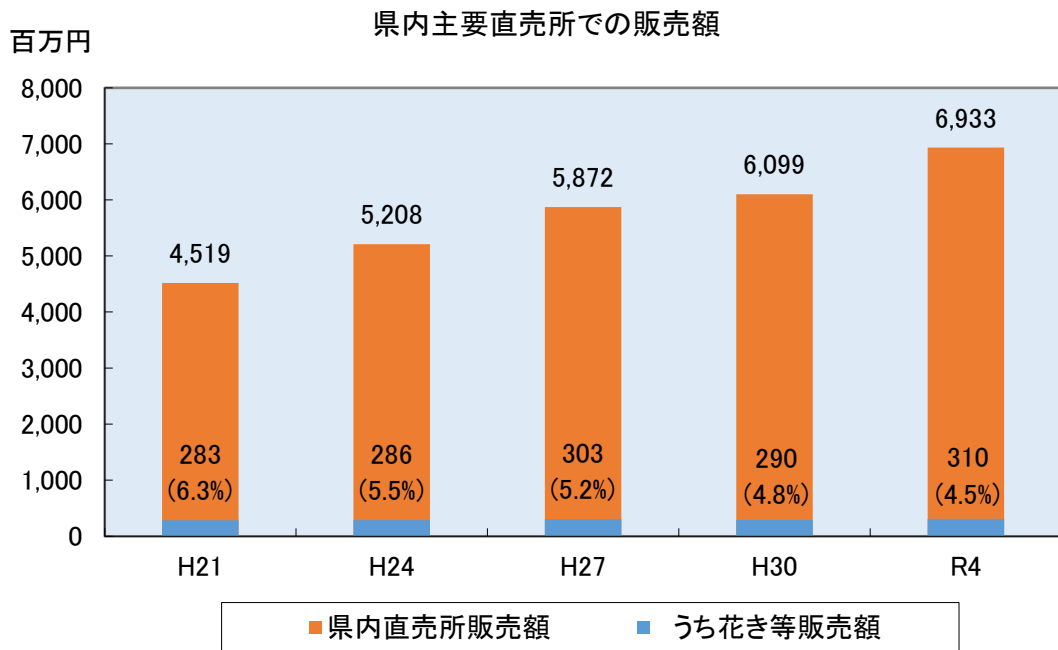




東京都中央卸売市場「流通統計情報」

## (2) 直売所等地域内販売の動き

県内の道の駅やJA直営などの主要直売所の販売額が年々増加傾向にある中で、花きは、切り花類を中心とした販売が行われ、販売額はほぼ横ばいで推移しています。令和4年の花きの販売額は3億1千万円で、直売所販売額の約5%となっています。

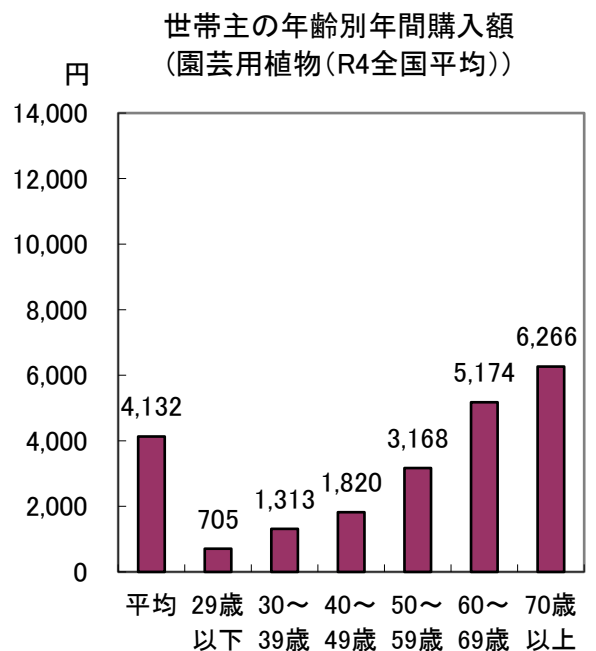
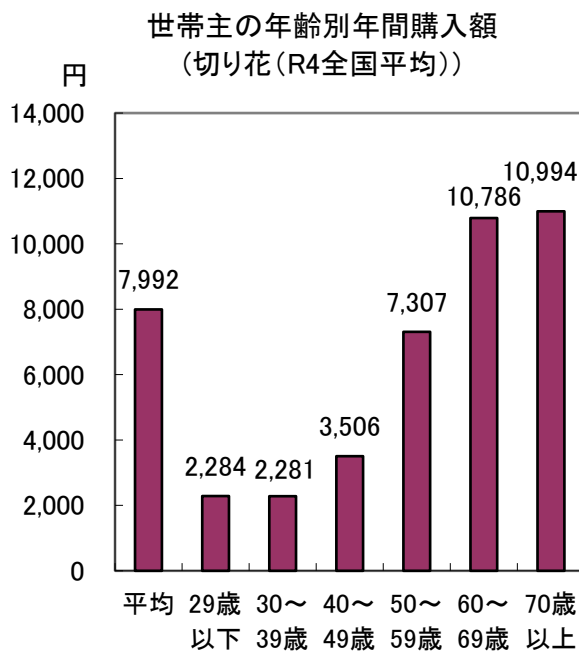
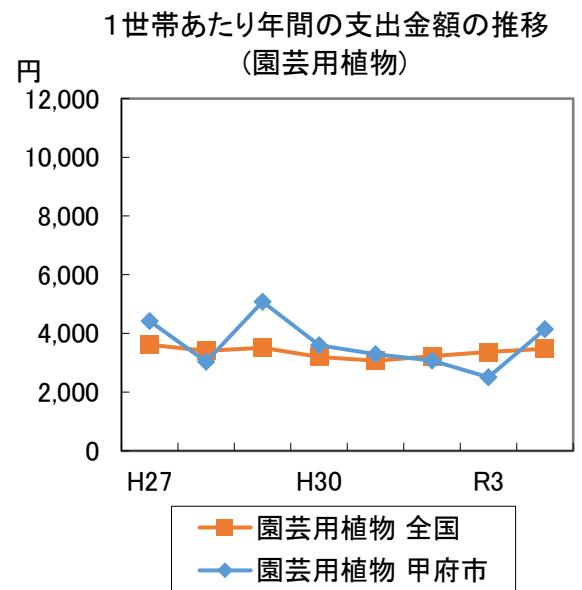
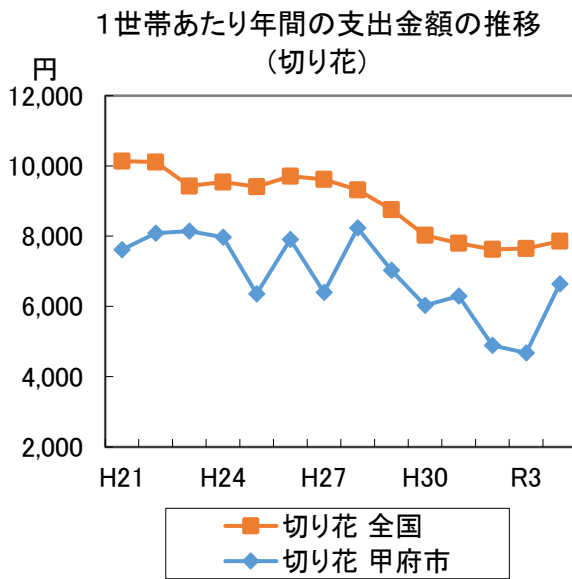


山梨県農政部

### (3) 消費の現状

令和4年の一世帯あたりの花き(切り花)の支出金額は、全国平均が7,922円、甲府市が7,592円で、ともに近年は下げ止まりの傾向がみられます。令和4年の世帯主の年齢別年間支出額(全国平均)は、30歳～39歳は2,281円と最も低く、70歳以上は10,994円と最も多く支出しています。

また、一世帯あたりの園芸用植物(鉢花、観葉植物、草花の種や苗など)の支出金額は、全国平均が4,132円、甲府市が5,132円で、ともにほぼ横ばいの傾向です。令和4年の世帯主の年齢別年間支出額(全国平均)は、29歳以下は705円と最も低く、70歳以上は6,266円と最も多く支出しています。



総務省家計調査(家計収支)調査結果

#### (4) 消費の新たな動向

花の消費の新しい動きとしては、コロナをきっかけに、業務需要が縮小し、定額で一定期間・定期的に花を購入することができるサービス「花のサブスクリプション(以下、サブスク)」を含むホームユース利用が拡大しています。(株)大田花きの推計によると、花のEC・サブスク市場(一部鉢物を含む。切り花が大半を占める)は、令和2年と令和4年比で約3.5倍の260億円になり、コロナ禍が落ち着いた今でもEC・サブスクの需要は堅調で、令和5年には300億円の市場規模になるとも試算されています。

#### (5) 流通の新たな課題

令和6年(2024年)4月からトラックドライバーの長時間労働是正のため、時間外労働の上限規制(年間960時間)が適用され、物流の効率化に取り組みなかった場合、労働力不足による物流需給がさらに逼迫するおそれがあり、コロナ前の令和元年比で最大14.2%(4.0億トン)の輸送能力不足が起こり、「農産・水産品出荷団体」では32.5%の輸送能力不足が起こると試算されています。

さらに、令和12年(2030年)には、34.1%(9.4億トン)の輸送能力不足※が懸念されており、「物流の2024年問題」と言われています。

※(株)NX総合研究所試算(令和4年11月11日)

#### 「物流の2024年問題」の影響により不足する輸送能力試算

○全体

不足する輸送能力の割合(不足する営業用トラックの輸送トン数)
<b>14.2%(4.0億トン)</b>

○発荷主別(抜粋)

業 界	不足する輸送能力割合
農産・水産品出荷団体	<b>32.5%</b>
紙・パルプ(製造業)	<b>12.1%</b>
建設業、建材(製造業)	<b>10.1%</b>
自動車、電気・機械・精密、金属(製造業)	<b>9.2%</b>

○地域別(抜粋)

地 域	不足する輸送能力割合
中 国	<b>20.0%</b>
九 州	<b>19.1%</b>
関 東	<b>15.6%</b>
中 部	<b>13.7%</b>

出典:農林水産省「花きの現状について」(令和5年3月)

株式会社NX総合研究所試算(令和3年11月11日)

## 第3章 本県花きの目指すべき姿

### 1 目指すべき姿

#### 「花き生産者の所得の向上」

本県花きの振興を図るためには、生産者の経営の安定化を図ることが何よりも重要であることから、『花き生産者の所得の向上』を本計画の目指すべき姿とします。

#### 《将来の姿（10年後）》

- オリジナル花き等特産花きの安定生産技術や高温対策等の生育障害対策技術、光環境改善技術等の開発・普及が進み、生産性が向上するとともに、高品質な花きが生産されています。
- 効果的な情報発信により、県内外の実需者や消費者に県産花きの魅力が認知され、利用の拡大が図られています。

### 2 目標

- (1) 県産花きの生産基盤の強化による高品質・安定生産
- (2) 花き産業関係者と連携した県産花きの需要拡大

「花き生産者の所得の向上」を実現するためには、更なる生産性の向上と高品質化を推進するとともに、生産された花きの魅力を県内外の市場・小売店等の実需者や消費者へ効果的にPRし、需要を増進していくことが重要です。

このため、「県産花きの生産基盤の強化による高品質・安定生産」と「花き産業関係者と連携した県産花きの需要拡大」という2つの目標を掲げ、本県花きの振興を関係機関と一体となって取り組んでいくこととします。

## 第4章 アクションプラン

令和5(2023)年度から令和8(2026)年度までの4年間に具体的に取り組む施策・事業の内容と工程は次のとおりです。

### 1 花きの安定生産に向けた生産基盤の強化

#### 【取り組みの方向】

- ・ 花き産地の振興を図るため、特産花きの種苗供給や栽培技術の確立・普及による生産性及び品質の向上に取り組めます。
- ・ 高品質化、省力化・低コスト化技術等の開発・普及を推進するとともに、既存担い手の組織活動の活性化支援や担い手の確保や生産拡大に向けた就農希望者等への情報提供等を行い、花きの生産基盤を強化します。

#### 《数値目標等》





成 果 指 標	現 況 値 (R4)	目 標 値 (R8)
ふじさんアジサイ※(ピラミッドアジサイ)生産農家戸数	7戸	12戸
高品質化、省力・低コスト化技術の開発・導入	—	5技術

※山梨県内で生産されたピラミッドアジサイを「ふじさんアジサイ」と称します。

ふじさんアジサイの主な品種は、県オリジナル品種「ふじさんアジサイ‘あかね’(山梨24-1)」、  
「ふじさんアジサイ‘ほくと’(山梨22-1)」、既存品種「ライムライト」

## 【主な施策】

### (1) 特産花きの生産性・品質の向上

具体的な取組事項					
<p>① ふじさんアジサイの安定生産に向けて、新品種等の地域に適応した切り花の剪定・仕立て方法、鉢花の草姿改善技術等を確立・普及するとともに、切り花、鉢花、苗物の生産マニュアルを策定することにより生産性の向上を図ります。</p> <p>② オリジナル花き等の早期産地化を図るため、種苗生産に関する需要調査を行い、県オリジナル品種や、栽培特性を確認した切り花・花壇苗等の品目・品種について、高冷地野菜・花き振興センターにおいて県内生産者への種苗供給に取り組みます。</p> <p>③ 本県の主要品目の生産安定・品質向上に向けて、コチョウラン、シンビジウム、シクラメン、アッサムニオイザクラ、花壇苗などの栽培技術の開発及び技術導入支援を行います。</p> <p>④ 農産物直売所等での県産花きの生産を拡大するため、総合農業技術センターが中心となり、地域の環境に適応し、長期間の出荷や省力栽培、加工利用が可能な切り花品目等の展示や情報提供、苗の導入を支援します。</p> <p>また、現地に新規導入した切り花や鉢花品目の安定生産と品質向上に向け、基本栽培管理の技術指導とともに、切り花の日持ち性向上技術、ドライフラワーや花束などへの加工適性などの情報提供や研修会の開催を支援します。</p>					
取組事項	担当部署	工程表（年度別事業計画）			
		R5	R6	R7	R8
①ふじさんアジサイの地域に適応した栽培技術の確立・普及	総合農業技術センター				
	農務事務所	技術確立	生産マニュアル改訂	普及支援	
②オリジナル花き等の種苗の生産・供給	総合農業技術センター				
		生産供給 需要調査			
③主要品目の生産支援 ・コチョウラン ・シンビジウム ・シクラメン ・アッサムニオイザクラ ・花壇苗	総合農業技術センター				
	農務事務所	技術開発			
					
		技術支援			



取組事項	担当部署	工程表（年度別事業計画）			
		R5	R6	R7	R8
④直売向け品 目・品種の導 入・定着	総合農業技術センター	→			
		展示・情報提 供 研修会開催支 援			
	農務事務所	→			
		安定生産支援			

## (2) 高品質化、省力化・低コスト化に向けた技術の開発と普及

具体的取組事項					
<p>① 鉢花の高品質化により他産地との差別化を図るため、シクラメンの高温時の花蕾数減少抑制や開花遅延抑制、シンビジウムの夏季高温時の開花遅延や花飛びの要因解明、アッサムニオイザクラの高温時落花抑制など、生育障害対策技術の開発・普及に取り組みます。</p> <p>② 花壇苗等の需要拡大を図るため、地域や用途に適した品目・品種の選定、実需者のニーズに対応した新たな出荷規格やその生産に向け、栽培技術の確立を図ります。また、試験研究機関により、9マステスト※を活用した用土の最適化や低コスト化に向けた用土の開発を行います。</p> <p>※土壌水分、pH(酸度)をそれぞれ3つずつ組み合わせ(3×3=9マス)、同一場所で同時に比較試験する方法</p> <p>③ 鉢花栽培の高品質化・生産性向上を図るため、コショウランでのハウス遮光時の光条件の改善技術や、遮熱資材等による温度抑制技術を確立・普及するとともに、IoTを活用した環境制御技術の導入に向けた実証を進めます。また、クリスマスエリカの早期開花に向けて、冷蔵施設を利用した低温処理の取組支援及び施肥や仕立て方法、温度抑制等管理技術の改善・普及に取り組むとともに、実付き鉢物等新たに導入された品目の栽培支援による生産性の向上に取り組みます。</p> <p>④ 需要期の切り花の高品質化と省力化に向け、お盆(7月、8月)、彼岸(3月、9月)に、菊やアスターなど既存品目と組み合わせて露地栽培(簡易雨除け含む)で出荷可能な有望品目について、品種の選定と栽培技術の確立に取り組みます。</p>					
取組事項	担当部署	工程表(年度別事業計画)			
		R5	R6	R7	R8
①鉢花等の生育障害対策技術開発・普及	総合農業技術センター 農務事務所	技術開発	現地試験	普及支援	
			普及		
②花壇苗等の品目・品種の選定	総合農業技術センター 農務事務所	選定	選定・導入支援		
			導入支援		
栽培・省力・低コスト化技術の確立	総合農業技術センター	導入品目・品種及び新たな出荷規格に向けた栽培技術確立	現地試験		
		最適化、低コスト化に向けた用土の開発	現地試験		

取組事項	担当部署	工程表（年度別事業計画）			
		R5	R6	R7	R8
③鉢花等の生産性向上技術の開発・普及	総合農業技術センター	→			
	農務事務所	技術開発			
		普及	→		
④切り花栽培技術の確立	総合農業技術センター	→			
	農務事務所	展示・普及 技術確立 現地試験			
			→		
		普及 導入支援			

(3) 既存担い手の組織活動の活性化及び担い手の確保・育成

具体的取組事項					
<p>① 山梨県花き園芸組合連合会や富士北麓花き生産協議会など、地域の中核的な生産者組織を対象に、組織活動への助言や情報提供、品目や部会ごとの研修の拡大、組織の新たな取組実施に向けた支援を行います。また、施設園芸セーフティネット構築事業等、事業の活用を支援します。更に、若手生産者については、優良経営事例の検討や、情報交換の場づくりを実施します。</p> <p>② 県内の生産者組織、流通販売関係者、実需者、県などで構成される山梨県花き振興協議会の運営・活動を支援し、花き産業関係者の交流と連携を強化します。</p> <p>③ 担い手の確保や既存の生産者の規模拡大に向け、空きハウス等の情報収集と就農希望者等への情報提供を行い、ハウスの有効活用を図るとともに、果樹等との複合経営モデルの提案、普及を図ります。また、労力の確保に向けて、農福連携の取組事例の周知や継続的な活動への支援を行います。</p>					
取組事項	担当部署	工程表（年度別事業計画）			
		R5	R6	R7	R8
①組織活動への支援	総合農業技術センター 農務事務所	[Blue bar spanning R5 to R8]			
		組織活動支援			
②花き産業関係者の連携支援	食糧花き水産課 総合農業技術センター		[Blue bar spanning R6 to R8]		
		連携会議開催 活動支援			
③担い手の確保・生産規模拡大	総合農業技術センター 食糧花き水産課 農務事務所	[Blue bar spanning R5 to R8]			
		空きハウス等の情報収集と関係機関への情報提供			
		就農相談での空きハウス等の情報提供			

## 2 県産花きの需要拡大

### 【取り組みの方向】

- ・ 県産花きの販売拡大や認知度向上を図るため、首都圏の展示会等で県産花きのPRや県内外における生産者・生産者組織が行うPR活動や販売促進活動を支援します。
- ・ 市場や小売店等の実需者と連携し、県産花きのPRと利用拡大に向けた取組を推進するとともに、需要に応じた品目・品種の導入を支援します。
- ・ 県立フラワーセンターなど県内各地の観光施設等における県産花きの利用を拡大することにより、県民や観光客に向けて県産花きをPRし、消費を拡大します。
- ・ 花の消費の少ない若者世代や社会人世代などへ県産花きの利用拡大を図るため、花育活動を推進します。

### 《数値目標等》

成 果 指 標	現 況 値 (R5)	目 標 値 (R8)
需要に応じた品目・品種導入数	—	4 品目(品種)
新たな花育活動の取組数	—	4 取組

(1) 消費者・実需者へのPR

具体的取組事項					
<p>① 県産花きを東京など花の消費地でPRするため、関東東海花の展覧会など、全国規模の品評会や展示会への生産者の出展を支援するとともに、市場商談会への生産者の出展等を支援し、新たな販路を開拓していきます。</p> <p>また、県内における県産花きの知名度向上を図るため、県花き品評会や地域特産花きの展示PRなど、消費拡大イベント等の開催を支援するとともに、費用対効果の高いPRを推進します。</p> <p>さらに、令和9年3月から横浜で開催される国際園芸博覧会に出展し、国内外に県産花きを広くPRします。</p> <p>② 県産花きの販路の拡大を図るため、市場や小売店と連携し、有望な品目・品種を選定し、地域への導入を図り、需要に応じた品目・品種の導入を支援します。</p> <p>また、ふるさと納税の返礼品への県産花きの活用を支援するとともに、近年実需者の関心が高まっているエディブルフラワーについて、県内高級レストランや宿泊施設等と県内生産者とのマッチングや、「やまなしの美酒・美食」の取組との連携を図ります。</p>					
取組事項	担当部署	工程表（年度別事業計画）			
		R5	R6	R7	R8
①県内外での消費拡大活動	販売・輸出支援課	PR・出展支援			
	食糧花き水産課	PR・出展支援			
	農務事務所	出展支援			
	総合農業技術センター	出展支援			
	食糧花き水産課	国際園芸博覧会 出展計画検討		予算検討 ・予算化	出展準備
②花き産業関係者との連携	食糧花き水産課	連携支援			
	総合農業技術センター	実証支援			
	農務事務所	実証支援			
エディブルフラワー	販売・輸出支援課	マッチング支援			
	総合農業技術センター 農務事務所	生産支援			

## (2) 観光分野での県産花きの利用促進

具体的取組事項					
<p>① 県内各地の市町村の管理する公共の公園や公共施設などにおける県産花きの利用を拡大し、県産花きを利用した植栽等による消費者へのPRに向け、市町村や県立フラワーセンター等の施設管理者等に対し、飾花等に適した花きの情報提供や利用方法の提案等を行います。</p> <p>② 県産花きの飾花品質の向上を図り、利用を定着させるため、市町村担当者や施設管理者等を対象に、飾花後の省力管理などの研修会を開催し、栽培管理技術を普及します。</p>					
取組事項	担当部署	工程表（年度別事業計画）			
		R5	R6	R7	R8
①施設等での利用拡大	食糧花き水産課 農務事務所 総合農業技術センター	情報提供			
		利用方法提案			
		利用推進			
②飾花品質の向上	農務事務所	技術支援			
		研修会開催			
	総合農業技術センター	展示等研修会開催			
催支援					

### (3) 地域と連携した花育活動の推進

具体的取組事項					
<p>① 県内での花育活動を拡大するため、花き生産者等と連携し、県産花きを使った花壇づくりや寄せ植えなどの体験教室を開催します。 また、社会人世代を対象とした体験教室等、新たな取り組みを開始するとともに、活動事例の共有により取り組みの拡大を図ります。</p> <p>② 花育活動で県産花きの利用を拡大するため、花き生産者等と連携し、市町村や花育ボランティア等への県産花きのPRや利用に向けた情報提供、花育活動の事例共有を行います。</p>					
取組事項	担当部署	工程表（年度別事業計画）			
		R5	R6	R7	R8
①花育体験教室の開催	食糧花き水産課	▶			
		体験内容検討 開催			
②花育での県産花き利用	農務事務所	▶			
		開催支援			
	食糧花き水産課	▶			
		県産花きPR 情報提供			



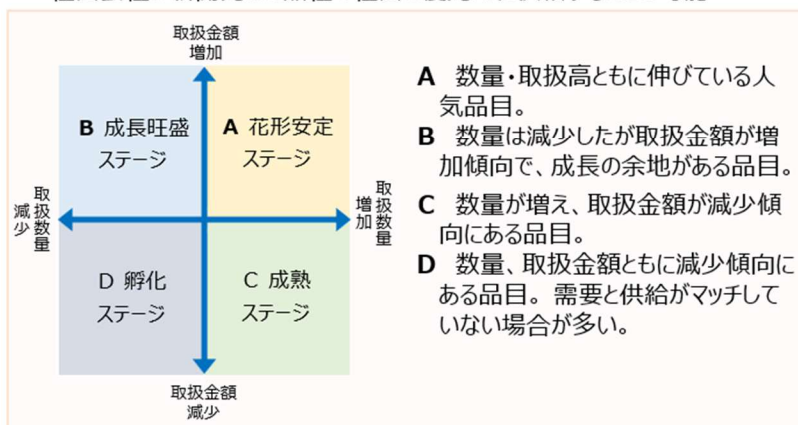
### 3 株式会社大田花きと連携した花きの生産振興

#### 【取り組みの方向】

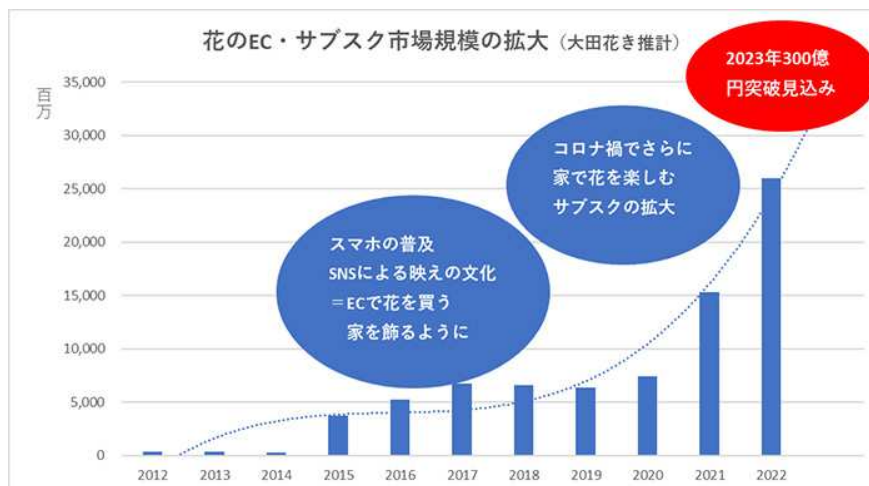
- 令和6年1月9日に山梨県と(株)大田花きが締結した連携協定に基づき、山梨県と(株)大田花きが相互に連携・協働し、地域の諸課題に迅速かつ適切に対応し、活力ある個性豊かな花き産地の形成と発展を図ります。
- (株)大田花きが蓄積した販売データを活かして提案する有望な品目・品種の栽培実証支援を行い、生産技術の確立・普及を図ります。さらに、(株)大田花きや種苗会社からの種苗供給や栽培技術指導を受けながら標高差のある地形や大消費地に隣接する立地条件を活かして高品質生産を行い、高品質な花きを(株)大田花きが買い取り販売する新たなビジネスモデルの構築を図ります。
- 物流の効率化や「花のサブスクリプション」等ホームユース利用に向けた生産販売の推進等、新たな課題への対応検討を進めるとともに、県産花きの認知度向上と消費拡大の取り組みを進め、県産花きの生産・流通・販売の高度化の取り組みを進めます。

#### 成長分析マップ

- ・大田花きを持つデータベースから、切り花各品目の成長度を分析
- ・現在売れ筋の品目や、今後売れる品目等を予測
- ・有望品目から産地や担い手の状況に合ったものを選定・提案
- ・種苗会社が新開発した品種の種苗を優先的に供給することも可能



出典:(株)大田花き花の生活研究所「フラワービジネスノート 2023」を一部改変



出典:(株)サカタのタネ「新たな切り花ビジネス構築へ、EC・サブスク向け新規栽培規格を開発」(令和5年6月29日)

## 【主な施策】

具体的な取組事項					
<p>① 新たな花き産地の形成や生産拡大に向けて、(株)大田花きが蓄積した販売データを活かして提案する有望品目・品種について、地域での適応性を把握するため、(株)大田花きや種苗会社、生産者が取り組む栽培実証を支援するとともに、導入品目の収益性や果樹など他作物との複合経営を検証し、有望品目・品種の導入・普及を図ります。</p> <p>② 「物流の2024年問題」を踏まえ、既存物流の積載率の向上や新技術の導入等を検討し物流の効率化を図るとともに、サブスクリプション等のホームユース利用についても検討を進めます。</p> <p>③ 県産花きの認知度向上と消費拡大に向け、(株)大田花きの情報発信力を活かして県産花きの魅力を全国に伝えます。</p>					
取組事項	担当部署	工程表（年度別事業計画）			
		R5	R6	R7	R8
①有望品目・品種の導入・普及（再掲）	(株)大田花き	[進捗条]			
		有望品目・品種の提案、選定	生産物の販売 品目品種選定		
	種苗会社	[進捗条]			
			品種情報の提供、種苗供給、栽培指導		
	食糧花き水産課	[進捗条]			
	総合農業技術センター 農務事務所	連携支援			
		実証支援			
②物流の効率化等	(株)大田花き	[進捗条]			
	食糧花き水産課	効率化方策の提案・支援			
			実証支援		
③県産花きの魅力発信	(株)大田花き	[進捗条]			
	食糧花き水産課	情報発信			
			県産花き情報の提供		

## 第5章 地域別重点推進事項

### 1 中北地域

#### (1) 地域の現状

##### ① 地域の概況

- 中北地域の農地は、甲府盆地の標高 250mから長野県境に近い標高 1,000mを越える地域まで幅広く分布し、年平均気温は 12.0℃（アメダス大泉 2022）から 15.7℃（アメダス甲府 2022）と気象条件も変化に富んでいます。
- このように多様な立地条件や気候を活かし、水稻をはじめ、果樹、野菜、花き、畜産など、多岐にわたる農業経営が行われています。

##### ② 生産の概況

- 南アルプス市を中心とした平坦地では、シクラメンやニューギニアインパチェンス、シンビジウムなどの鉢花が栽培されています。また、中央市では、コショウランなどの洋ランが栽培され、法人経営も多く、特色ある経営を展開しています。切り花は、甲府市を中心にスターチス・シネンシスが栽培されています。
- 北杜市などの高冷地では、八ヶ岳南麓地域を中心に、コショウランやシンビジウムなどの洋ラン類の山上げ、クリスマスエリカや花壇苗などの栽培が行われています。
- 各地でふじさんアジサイが栽培されており、切り花・鉢花として出荷されています。



コショウラン（中央市）



クリスマスエリカ（北杜市）

### ③ 地域の特徴的な動き

- 甲府市では、昭和 60 年頃から水稲や野菜との輪作が可能なスターチスが導入され、J Aによる共選・出荷体制が整い産地化が進みました。現在は、ラナンキュラスなど他の切り花品目と組み合わせた生産や直売等の取り組みも一部で行われています。
  
- 中央市では、春先の晴天率が高く気温上昇が早い気象条件を活かして、野菜の施設栽培が行われてきましたが、昭和 60 年以降、周年出荷が可能でより収益性の高い品目としてコチョウランが導入されました。現在では洋ラン類の専作経営を行う法人が、コスト低減技術を導入するとともに、小輪系品種の導入やふるさと納税返礼品としての提供等の新たな商品開発に取り組んでいます。また、様々な業界へのマーケティングを積極的に行い、新たな販路の開拓に取り組んでいます。
  
- 南アルプス市は、かつて養蚕等が農業経営の中心でしたが、昭和 30 年頃、キクが導入され、露地栽培から施設栽培へと発展しました。その後、収益性の高い品目としてシクラメンが導入され、シンビジウムや各種鉢花の栽培も始まりました。昭和 40 年代以降には、経営者の世代交代とともに果樹からの転換が進み、シクラメンの底面給水法を導入した大規模経営が行われるようになりました。  
また、ニューギニアインパチェンス等の補完品目の導入、冬場の雇用確保による周年出荷体制が確立し、花きの産地化が進みました。  
さらに、果樹との複合経営による切り花栽培も行われています。
  
- 北杜市明野町では、平成元年ごろから切り花の補完品目として花壇苗が導入され、県立フラワーセンターへの苗供給を行う等、春から秋にかけて品質の高い苗生産が行われています。
  
- 北杜市大泉町、高根町、明野町では、クリスマスエリカが栽培されており、J A全農やまなしと J A梨北が連携して販売体制が構築され、県内外に出荷されています。
  
- 八ヶ岳南麓地域の鉢花・花壇苗生産者が中心となり八ヶ岳グリーンネットワーク（山梨支部 26 名）を設立し、地元の種苗会社等と連携する中で、研修会開催や市場商談会への出展、会員相互の情報交換、八ヶ岳ファーマーズマーケットの開催など、意欲的に活動を行っています。

- 地域内に数多く設置されている農産物直売所では、年間を通じ花き類に対する需要が多く、野菜と組み合わせて栽培することが可能なスターチスなどの切り花や、盆、彼岸等の需要期出荷に合わせた品種・作型の導入が進められています。また、八ヶ岳南麓地域の直売所では、夏期の観光客や地域住民をターゲットとしたカジュアルフラワーの需要が増加しており、消費者のニーズに対応した品目・品種の生産が行われています。
- ふじさんアジサイは、南アルプス市を中心に平成 24 年から鉢花の補完品目として栽培が始まりました。現在では、中央市や北杜市などで栽培され、切り花・鉢花として出荷されています。
- 近年、鉢花農家に後継者が就農するなど、地域を担う若手の活躍が期待されています。

## (2) 重点推進事項

- 需要に応じた花きの生産強化
  - ・ ふじさんアジサイやクリスマスエリカ等の特産花きの導入や、洋ラン類等の地域基幹品目の安定生産・低コスト省力栽培技術などの導入を支援します。
  - ・ 花き生産者の新たな販路開拓及び所得向上のため、県農業まつり等の販売イベントや山梨県花き品評会等を通じて消費者ニーズを把握し、生産者への情報提供を行います。
- 担い手の確保・育成と生産者組織活動の活性化
  - ・ 花き生産者組織に対して、様々な機会を利用し新しい栽培技術（施肥や薬剤の使用、仕立て方法、新品種等）や生産コストの低減など、情報提供を行い生産者組織の活動を活性化します。
- 県産花きの新たな需要の開拓
  - ・ 県産花きの消費拡大のため、管内市町や公共施設等への花壇飾花活動を推進します。



## 2 峡東地域

### (1) 地域の現状

#### ① 地域の概況

- 峡東地域の地形は扇状地特有で起伏が多く、農地は標高 255mから 800mに分布し、年平均気温は 14.1℃（アメダス勝沼）です。

農家は専業農家率が高く、立地条件を生かしてブドウ、モモを中心とした果樹農業を中心に、野菜、花きなど多様な農業が行われています。

#### ② 生産の概況

- 花き生産は、平坦～中間地を中心に、春先の気温上昇が早いという盆地特有の立地を生かし、洋ラン類や切り花の施設栽培が行われています。また、花き専作経営のほか、ブドウやモモなどの果樹との複合経営が行われています。
- 切り花では、笛吹市御坂町を中心としたバラや八代町を中心としたキクが栽培され、産地が形成されています。
- 洋ラン類は、峡東地域 3 市それぞれでコチョウラン、シンビジウムなどが生産されています。



バラ（笛吹市）



キク（笛吹市）

### ③ 地域の特徴的な動き

- キクやバラなどの切り花は、果樹等の補完品目として昭和 30 年代に導入され、収益性が高いことから生産量が増加し、組織化も図られました。

バラは、施設化やロックウール栽培の導入に伴い周年出荷とバラ専作化が進みましたが、近年は燃油高騰や単価の伸び悩みから、冬期加温や出荷を行わない栽培体系の導入や、補完品目として果樹との複合経営を行う農家が増加しています。

キクは、低コスト化に向け露地栽培へのシフトや、果樹との複合経営が行われています。また、地域内の農産物直売所向けに複数の切り花品目を果樹などと組み合わせた経営が検討されています。

- 洋ラン類は、切り花生産からの転換や果樹の補完品目として古くから生産が行われ、平成に入ってからシンビジウムが導入されましたが、現在では農業者の高齢化等により生産者数は減少しています。

コチョウランは、現在では海外から開花株を導入し、短期間で出荷することにより、施設の回転率を向上させる計画生産が主流となっており、出荷計画に沿った生産と経営安定に向けた取り組みが行われています。

- 各地に市や J A 等が設置した農産物直売所は花き農家の販路のひとつとなっており、果樹農家が直売所向けの切り花や苗物を生産・出荷するなど、新たな動きが出ています。

- 耕作放棄地を利用してヒマワリや菜の花などを植栽し、モモの花と組み合わせて景観形成に利用するなど、地域振興を兼ねた取り組みが行われ、住民に花に親しむ機会を提供するほか、地域の新たな観光資源としても注目されています。

- 笛吹市では積極的に特産のバラを P R しており、温泉施設でのバラ風呂やバラの庭園、ローズティー等を提供するカフェなど、観光資源として活用されています。

- 近年、洋ラン農家やバラ農家などでは、農家子弟が後継者として経営に参画しており、地域を担う若手の活躍が期待されています。

## (2) 重点推進事項

- 消費者ニーズに対応した商品づくりへの支援
  - ・ 需要拡大や販路拡大を図るため、直売所などの関係機関や団体と連携し、消費者嗜好を把握し、ニーズにあった商品づくりや新たな付加価値の提案を行います。
  
- 切り花等直売向け品目・品種等の導入や栽培支援
  - ・ 果樹との複合経営が可能な花き品目を導入するため、果樹の端境期に生産出荷が可能な品目の選定と直売所を活用した販路拡大の取り組みを支援します。
  
- 観光地や公共施設等での県産花きの飾花利用の推進
  - ・ 県オリジナル品種や県産花きの利用を促進するため、公共施設や学校等の花壇の飾花活動を支援します。
  
- 県オリジナル品種の安定生産技術等の普及
  - ・ ふじさんアジサイ等について、標高別の開花時期や花色変化など品種特性に応じた安定生産技術の普及や、飾花利用など新たな用途に対応した仕立てや施肥など栽培管理技術を普及します。
  
- 管内の花資源の活用促進
  - ・ 世界農業遺産認定に向けた活動と合わせ、地域の景観を構成するモモやスモモなどの果樹の花や、地域で行っている花の植栽、飾花等の取り組みについて、地域の新たな観光資源となるための活動を促進します。



### 3 峡南地域

#### (1) 地域の現状

##### ① 地域の概況

- 峡南地域の農地は標高 250m から 1,000m に広がり、その多くは山間傾斜地に分布し、年平均気温は 15.0℃（気象庁, 南部）です。
- 農家 1 戸あたりの経営耕地面積は小さく、水稻を中心にスイートコーンや野沢菜などの露地野菜や果樹、花き、茶などの栽培が行われています。
- 農業の担い手は高齢者が主体で、兼業農家や自給的農家が多くを占めています。

##### ② 生産の概況

- 富士川町穂積地区では、平成 24 年からふじさんアジサイの栽培が始まり、現在は、切り花での栽培・出荷が行われています。
- 昭和 20 年代終わり頃から身延町中富地区や身延地区で栽培されているナンテンは、正月向けの縁起の良い枝物としての需要が高く、毎年 12 月に J A を通じ市場出荷が行われています。
- 農産物直売所出荷者には、パンジー等の花壇苗、盆彼岸を中心とした切り花の出荷を行っている生産者がいます。



ふじさんアジサイ（富士川町）



ナンテン（身延町）

### ③ 地域の特徴的な動き

- 富士川町穂積地区には、アジサイの名所があり、農業資源にとどまらず、観光資源としても活かされています。アジサイの季節になると、多くの観光客が地域を訪れ、地域の活性化につながっています。平成 24 年からは、「ふじさんアジサイ」の商品化に向けた取り組みが始まり、現在では主に市場出荷が行われています。
  
- 身延町中富地区及び身延地区では、昭和 20 年代終わり頃から山間地の立地条件に合ったナンテン栽培が始まり、昭和 50 年頃には町の特産物として奨励されるようになりました。その後、JA 等により流通体制が整備され、県内を中心に出荷されています。現在、高齢化などの影響で生産者数は減少傾向にありますが、この地域のナンテンは実が大きく、実付きがよいことから引き続き需要が高く、生産・出荷が受け継がれています。
  
- 令和 3 年 8 月には中部横断自動車道が全開通し、交通アクセスの向上により地域への来訪者が増加し、道の駅等で切り花や鉢花の販売も増加しています。

## (2) 重点推進事項

- 試験研究成果に基づく技術・新品種等の導入
  - ・試験研究の成果を活用した技術の普及や、新たな県オリジナル品種の導入を検討し、出荷量の増加や品種の多様化を支援します。
  
- 地域特産花きの消費拡大への支援
  - ・地域特産花きの品質向上と安定生産に向けた技術支援を行うとともに、PR 活動等について関係機関と連携し、知名度向上と販路拡大へ向けた支援を行います。

## 4 富士・東部地域

### (1) 地域の現状

#### ① 地域の概況

- 当地域は、県の東部に位置し1都3県に隣接しており、標高約200mの上野原市から約1,000mの山中湖村まで標高差があります。年平均気温は富士河口湖町で11.0℃、大月市で13.3℃となっています。

#### ② 生産の概況

- 富士北麓地域では、鉢花としてはアッサムニオイザクラ、エリカ類を中心として、様々な花木類の施設栽培が行われています。

花壇苗は、春はマリーゴールドやベゴニア、サルビアが、秋はビオラやパンジー等が栽培されており、特にビオラは広域的に産地が形成されています。

また、近年では、観光施設の飾花用を中心に、ふじさんアジサイの苗生産が行われています。

- 東部地域では、直売所需要の増加に伴い、ビオラ等の花壇苗や、アスターやストック等の切り花の栽培も行われています。



アッサムニオイザクラ（富士河口湖町）



地元消費者向けフェア

#### ③ 地域の特徴的な動き

##### 産地化の背景

- 富士北麓地域では、昭和40年代頃までは、露地野菜の生産や、シクラメン等の鉢花や一部切り花の生産が行われていましたが、昭和50年代頃から、ハボタン等の花壇苗や収益性の高い新たな鉢花品目としてアッサムニオイザクラが導入されました。平成3年頃にはビオラを中心とした秋出し花壇苗の生産も増加するなど、高標高地特有の冷涼な気候条件を生かした花き産地を形成しています。

## 既存組織の活動

- 平成9年には花き産地の生産振興を目的として、7市町村と9生産組織による富士北麓花壇苗生産協議会（現在の富士北麓花き生産協議会）を設立し、各生産組織の活動強化と会員間の情報共有を図ることで、生産者の資質向上に取り組んできました。現在は、各研究会（アッサムニオイザクラ研究会、切り花研究会、花の6次産業化研究会、ふじさんアジサイ研究会）が中心となった技術研修会や、地元消費者向けフェアの開催等により、産地の強化や地域特産花きの利用拡大に取り組んでいます。協議会活動には、会員の後継者も積極的に参加し、技術習得やPR活動を行うなど、協議会が花き後継者の育成に重要な組織となっています。

## 特産花きの取り組み

- ビオラは富士吉田市、鳴沢村、富士河口湖町、忍野村、道志村、西桂町、上野原市で栽培されており、地域に適した品種の選定や栽培方法が検討され、多くは地域内直売所や町中の花壇に利用されています。JA鳴沢村から出荷されるビオラは、「ど根性ビオラ」という地域ブランドで販売され、販売先の市場や首都圏の販売店では、非常に高い評価を受けています。
- アッサムニオイザクラは現在は富士河口湖町のみで栽培されています。農家による新品種の育種等も積極的に行われ、「富士のにおいざくら」として産地ブランドが確立され、全国の市場に出荷されています。アッサムニオイザクラ研究会では生産安定に向けた栽培技術の向上や検討を行っており、品質を低下させる葉の斑点症状が発生した際は、試験研究機関と連携した原因究明と、対策技術の現地普及に取り組み、被害の抑制につなげています。また販路拡大に向けた取り組みとして、主要市場担当者を招いた現地商談会等が行われており、また近年では町のふるさと納税の返礼品としての取り扱いも始まっています。
- ふじさんアジサイは富士吉田市、富士河口湖町で苗の生産が行われています。2020東京オリンピックの自転車ロードレースの競技会場となった山中湖村や、富士河口湖町の八木崎公園などで、県オリジナル品種の飾花利用が進み、地域内で苗生産が本格的に始まりました。また、地域内の量販店で販売PRが行われ、地元消費者や観光客から好評を得ています。

### 地域に適した品目の導入

- 富士北麓花き生産協議会では、切り花研究会と花の6次産業化研究会が中心となり、花の新たな需要の掘り起こしと出荷ロスの削減をめざし、採花期間の長いダリアや加工にも利用可能なスターチスといった切り花品目を導入しています。導入にあたっては、試験研究機関と連携して地域で栽培しやすい品目の選定と栽培方法の検討を行うとともに、種苗の共同購入による試験栽培の実施、ドライフラワーや花束等の加工技術研修の実施により、生産・販売の拡大に取り組んでいます。
- 東部地域では、談合坂 SA を中心に盆・彼岸等の需要期向けの切り花、花壇苗の生産が行われており、観光客や地元消費者に購入されています。他にも山野草など特徴的な品目も販売されており、販売品目の拡大が行われています。

### 観光分野での県産花きの利用の取り組み

- 富士河口湖町では町内の公共花壇への飾花とともに、ラベンダーをメインとしたハーブフェスティバルや富士芝桜まつりが、山中湖村では花の都公園を拠点とした季節の花の植栽や鉢花の販売が行われるなど、富士北麓地域では、景観形成作物としての花の活用や、花をテーマにしたイベントの開催などが盛んに行われています。またコロナ禍が明けてからの国内外からの観光客の増加に合わせ、花壇や観光施設においてふじさんアジサイの県オリジナル品種の飾花利用などの取り組みも始まっています。

### 地域と連携した花育活動の取り組み

- 生産者と学校で連携した花育活動は主に富士河口湖町、鳴沢村で行われています。特に富士河口湖町勝山地区では平成21年から生産者組織と学校が連携し、ピオラの寄せ植えやアッサムニオイザクラの作業体験等の活動を開始しました。近年は生産者、学校、花の加工業者が連携し、アッサムニオイザクラのコサージュ作りを行うなど、花とふれあいながら、親子で地域特産花きについて学び、親しむ体験活動が行われています。

## (2) 重点推進事項

### 特産花きの高品質化・低コスト化に向けた取り組み

- アッサムニオイザクラは、高品質化を図るため、アッサムニオイザクラ研究会の活動を支援するとともに、試験研究機関等と連携し高温期の落蕾症状など生理障害の発生低減、計画出荷、病虫害防除の徹底など安定生産が図られるよう支援を行っていきます。
  
- ビオラ等の花壇苗は、新しい品種の特性把握と、有望な品種の選定を継続して行います。また、経営コストの削減を推進するため、試験研究機関等と連携し、未利用資源の鉢土への活用検討など低コスト化技術の導入を支援します。
  
- ふじさんアジサイは、観光施設や公共花壇での飾花利用や、県、JA、販売店で連携した PR 活動により需要が高まっていることから、苗の安定生産技術を普及するとともに、鉢花や切り花の栽培指導も行い、地域での生産拡大を図ります。
  
- 切り花は、直売所を中心とした多様な需要に対応するため、生花として長期間出荷が可能な品目や、ドライフラワー等の加工に向く品目など、新しい品目・品種の選定及び導入を支援します。また、導入後の安定生産技術や花の日持ち性向上に必要な出荷調整技術など生産拡大と品質向上に向けた支援を行い地域への定着を図ります。

### 既存組織活動の活性化および担い手の確保・育成

- 富士北麓花き生産協議会は、活動の活性化を図るため、JAや市町村等関係機関と連携し、各種研修会や販促活動等の取り組みを支援するとともに、農家後継者など若い生産者の研修会等への参加を促し、技術向上や既存農家との交流が図られるよう支援します。

また、市町村や生産者組織と連携して空き施設等の情報を収集することで、花き生産者の規模拡大や新たに野菜・花きの複合経営で就農を希望する人の定着と経営安定を支援します。

### 地域内での特産花きの利用拡大

- 地域特産花きの地元での利用拡大を図るため、地域内量販店等での特産花きの販売品目の拡大や、生産者が主体となった地元産花きの地産地消販売イベント等の開催を支援します。
  
- 地域の子供たちが、花とふれあう機会をとおして、地域で栽培されている花や農業への関心を高めてもらうため、生産者が主体となって行う花育体験モデル事例を共有し、他の市町村等での取り組みの拡大を図ります。  
加えて、地域内の消費者を対象に、寄せ植えや切り花の加工体験などの生産者が行うワークショップ等の実施支援を行い、地域特産花きの認知度向上と利用拡大を図ります。

### 観光分野での県産花きの利用促進

- 観光地の魅力的な景観形成に向け、観光施設や公共花壇での需要に応じ、飾花に適した品目品種の導入を支援します。  
併せて、施設管理者や市町村など飾花管理担当者に対して、ふじさんアジサイの基本管理など景観を維持するために必要な管理技術研修会の開催や情報交換の場をつくり、地域内での特産花きの利用拡大を図ります。
  
- 観光客が多く訪れる道の駅や直売所、量販店等において、地域特産花きの品揃えの充実を進めることでPR効果を狙い、観光客等の需要に応じた花きの生産につなげます。



## 第6章 主要品目の推進事項

### 1 洋ラン

品目名	コチョウラン		シンビジウム	
生産規模 (R4)	栽培面積 5.6ha	生産額 9.5 億円	栽培面積 5.3ha	生産額 4.6 億円
主産地	中央市、笛吹市、山梨市		南アルプス市、笛吹市、甲州市	
現状課題	<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外から開花株を導入し、短期間で出荷することにより施設の回転率向上と出荷量増加に取り組んでいます。</li> <li>・資材や輸送費の高騰など生産コストが増加しています。</li> <li>・光条件の改善など、より計画的かつ効率的に生産出荷を行うための技術普及が求められています。</li> </ul> <p>《販売・消費》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コチョウランは贈答用として一定の需要があります。</li> <li>・正月向けや冠婚葬祭用の商品の開発と提案など、年間を通じた需要の確保に向けた取組も行われています。</li> </ul>		<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本県の標高差を活かした夏期山上げ栽培により 11～12 月出荷を行っています。</li> <li>・地球温暖化により夏期の猛暑が常態化しており、花芽分化や花の正常な生育を阻害し、開花の遅れや品質低下が見られます。</li> <li>・需要期の 12 月に計画的に安定して出荷する技術が求められています。</li> </ul> <p>《販売・消費》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大型商品のため、輸送コストが増大し、経営の負担になっています。</li> <li>・輸送コストを抑えるため、地方への出荷が減り、都市部中心の出荷に縮小する傾向があります。</li> </ul>	
推進事項	<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・光熱費の削減のため、研究機関の成果に基づき、開花への影響に十分配慮しながら、温度管理技術の改善を支援します。</li> </ul>		<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・猛暑による開花遅延や品質低下への対策として、山上げ地での高温対策や、ハウスでの光環境改善等による開花株の充実を図ります。</li> </ul>	
	<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・販路の拡大や商品開発等に取り組む生産者に対し、新たな需要の把握や更なる商品開発を進めるため、市場商談会等への出展を支援します。</li> <li>・高品質な花の PR や消費拡大に向け、花き品評会の開催や関東東海花の展覧会への出展を支援します。</li> <li>・資材高騰対策として、施設園芸セーフティーネットなど各種補助制度の積極的な活用を支援します。</li> </ul>			



## 2 鉢花

品目名	シクラメン		アッサムニオイザクラ	
生産規模 (R4)	栽培面積 5.6ha	生産額 4.7 億円	生産者数 8 人	生産量 70,000 鉢
主産地	南アルプス市、笛吹市		富士河口湖町	
現状課題	<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・底面給水を中心とした栽培が行われ、小さなサイズから大鉢まで多様な出荷規格での生産と、多品種化が進んでいます。</li> <li>・シクラメンを基幹品目として、ニューギニアインパチェンスやハイドランジアなどとの組み合わせにより、効率的な施設利用が行われています。</li> <li>・燃料費や種苗費等の高騰により生産コスト低減が求められています。</li> <li>・夏期の猛暑や病害虫等による品質への影響が発生しています。</li> </ul> <p>《販売・消費》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市場出荷が主体ですが、価格が安定する直売にも力を入れ始めています。</li> <li>・小鉢サイズのニーズが高まるとともに、育種が進み花形や花色が多様化しています。</li> </ul>		<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開花調節技術により、敬老の日の需要期をピークに8～12月まで出荷時期が拡大しています。</li> <li>・生産者が育成した独自品種を地域で活用し産地のブランド化を図っています。</li> <li>・品質低下につながる葉の斑点症状については、対策技術の普及が図られています。</li> <li>・夏期高温の影響により特に8、9月出荷株に見られる落花・落蕾症状の対策が求められています。</li> </ul> <p>《販売・消費》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市場関係者を招いた現地商談会を開催し販売促進に取り組んでいます。</li> <li>・「富士のにおいざくら」として市場シェアは高く維持されています。</li> <li>・地元消費拡大を目的に量販店等で直売などを行っています。</li> </ul>	
推進事項	<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏期の高温対策や病害虫対策など安定生産技術の情報提供や導入を支援します。</li> <li>・施設の有効活用が可能な補完品目等の導入や栽培を支援します。</li> </ul>		<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・落花・落蕾症状対策として研究機関の成果に基づき技術の普及を支援します。</li> <li>・未利用資源の鉢土への活用など低コスト化技術の導入を支援します。</li> </ul> <p>《販売・消費》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富士河口湖町のふるさと納税返礼品として取り扱いが始まり新たな販路として期待されています。</li> </ul>	
	<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな需要の把握や更なる商品開発を行うため、販路の拡大や新品目の導入等に取り組む生産者に対し、品評会、商談会等への出展を支援します。</li> </ul>			

### 3 県オリジナル花き

品目名	ふじさんアジサイ		クリスマスエリカ	
生産規模 (R4)	生産者数 7人	生産量 34,500本・株	生産者数 3人	生産量 2000鉢
主産地	北杜市、南アルプス市、笛吹市、富士川町		北杜市	
現状課題	<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主要花きの補完品目として導入され、山梨県花き園芸組合連合会、富士北麓花き生産協議会を中心に、切り花・鉢花生産に取り組んでいます。</li> <li>・平成29年から県オリジナル品種「あかね」「ほくと」の種苗供給が始まり、安定生産に向けた対策が必要となっています。</li> <li>・近年の夏期の猛暑により、日焼け等花穂の品質低下が目立っています。</li> </ul> <p>《販売・消費》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存品種のライムライトを中心に、切り花、鉢花が、県内外の市場や直売所等に出荷されています。</li> <li>・新たな用途として観光地、公園などでの飾花利用やドライフラワーなど加工用としてのニーズが高まっています。</li> </ul>		<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4号鉢～尺鉢が生産されています。</li> <li>・成品率の向上と生産量の増加に向けJAや研究会と連携した現地巡回や技術検討を行っています。</li> <li>・早期開花のための冷蔵処理が行われてきましたが、さらに安定した早期開花技術の確立が求められています。</li> </ul> <p>《販売・消費》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おいしい未来へ やまなし」の農産物として販売されています。</li> <li>・クリスマスのオリジナル花きとしての需要が高まっています。</li> <li>・開花が安定しないため、市場等の注文取引に応じきれない状況が見られます。</li> </ul>	
推進事項	<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高冷地野菜・花き振興センターにおける、県オリジナル品種の優良母株の生産供給を継続します。</li> <li>・新たに開発した新品種の、優良母株の生産供給を開始します。</li> <li>・夏期の高温対策や病害虫対策、飾花利用など新たな用途に対応した仕立てや施肥などの栽培管理技術を普及します。</li> </ul> <p>《販売・消費》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商談会や各種イベントへの出展を支援し、PRや需要調査などを行います。</li> <li>・飾花の利用を拡大し、鉢花の販路拡大を図ります。</li> <li>・ドライフラワーなど新たな利用の拡大に向けた取組を支援します。</li> </ul>		<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早期開花を安定させるため、夏期の低温処理技術や肥培管理等の見直し改善を行い、製品率の向上を目指します。</li> </ul> <p>《販売・消費》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者が長期間観賞できるように、購入後の適切な管理方法の周知に取り組みます。</li> </ul>	

## 4 切り花

品目名	バラ、その他切り花（露地・無加温栽培品目）	
生産規模 (H30)	栽培面積 28.0ha	生産額 6.8億円
主産地	笛吹市（バラ、キク） 甲府市（スターチス等） 北杜市、鳴沢村（直売所向け切り花各種）	
現状課題	<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様なニーズに対応するため、切り花全般に多品目・多品種化が進んでいます。</li> <li>バラはロックウールを使用したアーチング栽培により周年出荷されています。近年では、燃油高騰や単価の伸び悩みから冬期加温や出荷を控える生産者や、補完品目として果樹を導入する生産者が見られます。</li> <li>農産物直売所等への出荷を目的として、新たに切り花生産を希望する農家があり、コストの高い施設を必要としない品目やその栽培技術の導入が求められています。</li> <li>直売所等での消費者のニーズに対応し、多品目・多品種生産を行う小規模農家には、種苗会社の苗の最小販売ロットが大きく、生産拡大を図る際の課題となっています。</li> </ul> <p>《販売・消費》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スーパーや直売所等での販売が定着し、お盆や彼岸(9月)等の物日に加え、新たに年末や3月の彼岸などの需要も高まっています。</li> <li>直売所等では、日持ち向上に向けた水あげ技術や、花の組み合わせ、花束商品品質の向上が求められています。</li> <li>ドライフラワーやプリザーブドフラワーなど加工でも利用可能な品目のニーズが高まっています。</li> </ul>	
推進事項	<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>切り花の多様な品目・品種の栽培展示や情報提供等を行い、地域への導入を支援します。</li> <li>果樹、野菜などとの複合的な経営が可能な品目・品種の導入や栽培技術等の導入を推進します。</li> <li>7月、8月盆に加え年末や3月彼岸などの需要期の出荷に向けた品目・品種の選定と、無加温ハウスや大型トンネル等を活用した低コスト栽培技術の普及に取り組みます。</li> <li>切り花の多品目・多品種栽培に向け、市販苗の共同購入体制づくりを支援します。</li> <li>ドライフラワー等加工利用可能な切り花品目の栽培適性を把握し、情報提供するとともに商品化を支援します。</li> </ul> <p>《販売・消費》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>切り花の日持ち性向上技術や、花の組み合わせ、花束加工技術など、商品の品質向上に向けた情報提供や研修会の開催を支援します。</li> </ul>	

## 5 苗物類

品目名	ビオラ、ペゴニア、マリーゴールド等花壇苗	
生産規模 (R4)	栽培面積 20.9 h a	生産額 6.9 億円
主産地	北杜市、富士吉田市、鳴沢村、富士河口湖町	
現状 課題	<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富士北麓地域や八ヶ岳南麓地域など高冷地を中心に秋出し花壇苗、宿根性花壇苗等の生産が行われています。また花苗以外に、野菜苗生産を行っている生産者もいます。</li> <li>・品目・品種の多様化が進んでおり、地域に適した新品目・新品種の選定と、早期に安定して生産出荷可能な技術が求められています。</li> <li>・夏期の高温や病害虫等による品質への影響が発生しています。</li> <li>・飾花やギャザリング（寄せ植え）など需要に対応した新たな出荷規格とその生産技術が求められています。</li> </ul> <p>《販売・消費》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者の需要が多様化しており、市場や販売店では、品種の変遷のスピードが早くなっています。</li> <li>・県内の市町村等では、美しいまちなみづくりなどを目的とした、公共花壇等への飾花活動が行われています。</li> <li>・市町村や公園関係者などの花壇管理者からは、長期間観賞でき、省力的に管理できる花などの情報提供や技術指導が求められています。</li> <li>・県内外の観光施設では、大規模な花の植栽（飾花）により集客を図る取組が行われています。</li> </ul>	
推進 事項	<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平坦地から高冷地まで標高差や環境条件が異なる地域の飾花に適した品目・品種の選定や導入を支援します。</li> <li>・花壇苗の生産性の向上に向け、9 マステストを活用した用土の最適化や低コスト用土の開発を行います。</li> <li>・寄せ植え、飾花など消費者・実需者のニーズに対応した新たな出荷規格とその生産に向けた栽培技術を確立・普及します。</li> </ul> <p>《販売・消費》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本県の優れた花壇苗の品質をPRし、消費拡大を図るため、県内の公共施設や観光施設等での飾花展示等の取り組みを支援します。</li> <li>・飾花後の品質を向上させるため、施肥管理や長期間開花や省力的な管理技術など、管理者向けの技術の導入を支援します。</li> </ul>	